

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「行ってよかった、行かせてよかった学校」

エンパワメントスクール(ES)の役割を十分に果たし、人間力を向上させ、自律し自立することで社会貢献できる人材を育成する。

- 学びを大切にし、基礎学力の確かな定着と「夢」実現に向けた発展的学力の育成。
- 規範意識・コミュニケーション力を身につけ、自己と他者を大切にできる人間力の育成。
- 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの育成。
- 生徒が安心して挑戦できる安全な学校づくり。

2 中期的目標

1. 魅力ある「わかる授業」で学力をエンパワーする

- (1) ESの基本である学び直し学習を着実に行之、基礎学力の定着をはかる。
 - ア モジュール授業や入門科目により、基礎的基本的学習事項の確実な定着をはかる。
 - イ 全ての授業で「何をどのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」を明確に伝え、生徒の主体的に取り組む態度を育成しながら授業の実践に取り組む。
- (2) 1人1台端末等ICTを活用した学びの充実をはかる。
 - ア 「個に応じた学び」に取り組むための活用方法を研究し、実践していく。
- (3) 授業力向上研修の充実をはかる。
 - ア 保護者・地域・中学生等を対象とした授業公開を年2回実施。
 - イ 授業見学期間を学期ごとに設け、教員相互の見学を積極的に行い、自身の授業の工夫・改善につなげる。

【評価指標】

- ※生徒対象学校教育自己診断における授業満足度を令和10年度に90%以上にする。 [R5 78.3%、R6 82.2%、R7 84.2%]
- ※生徒対象学校教育自己診断におけるICT活用度を令和10年度に90%以上にする。 [R5 80.3%、R6 78.3%、R7 89.1%]
- ※教育産業が実施する学力診断テスト(2学期実施分)におけるD3の割合を令和10年度に全体の30%以下をめざす。 [R5 38.7%、R6 51.6%、R7 53.7%]
- ※教員対象学校教育自己診断における学習指導に対する工夫・改善に対する意識を令和10年度に90%以上にする。 [R6 81.8%、R7 83.4%]
- ※教員対象学校教育自己診断における授業内容に対する他教科との情報共有度を令和10年度に70%以上にする。 [R6 48.5%、R7 66.7%]

2. きめ細やかな生徒指導で人間力をエンパワーする

- (1) 進路実現に必要な基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
 - ア 生徒との対話を通して、良好な関係性を築くことで、安易な遅刻欠席の防止やマナー・ルールの徹底につなげる。
- (2) コミュニケーション力を向上させ、自己と他者を大切にし、安心・安全で充実した学校生活が送れる環境を維持する。
 - ア 人権教育の取り組みを通じて、自己と他者を大切にする姿勢を培う。
- (3) いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた対話を重視した生徒指導。
 - ア 日常の観察に加え、いじめアンケート等の情報収集を丁寧に行い、問題事象の未然防止・早期発見に努める。
 - イ SC等の多様な専門人材や関係機関との連携を強化し、教育相談・支援委員会の充実をはかる。

【評価指標】

- ※生徒・保護者対象学校教育自己診断における学校満足度(「入学して・させてよかった」)を令和10年度に90%以上にする。 [R5 生徒・保護者 87.4%、R6 生徒 72.9%・保護者 90.4%、R7 生徒 77.6%・保護者 90.8%]
- ※生徒対象学校教育自己診断における学校充実度(「学校が楽しい」)を令和10年度まで80%以上を維持する。 [R5 71.9%、R6 73.2%、R7 81.2%]
- ※総遅刻数・欠席数とも前年度比10%減を達成する。 [遅刻数、R5 2780回、R6 3840回、R7 3491回、欠席数R5 5072回、R6 5837回、R7 6252回]
- ※中途退学率0%をめざす。 [R5 0.3%、R6 0.86%、R7 3.32%]
- ※生徒対象学校教育自己診断における指導への納得度を令和10年度に80%以上にする。 [R6 62.9%、R7 70.3%]
- ※保護者対象学校教育自己診断における指導への共感度を令和10年度に90%以上にする。 [R6 77.5%、R7 79.8%]

3. 3年間を見通した進路指導で「夢」実現力をエンパワーする

- (1) 基礎学力の定着から発展的学力の育成につなげる。
 - ア 社会で役立つ資格取得や検定試験に向けて積極的に取り組み、就職はもちろん、4年制大学への進学につながる学力を養成する。
- (2) 高いモチベーションを生む・維持する取り組みを通して、進路実現をめざす。
 - ア 進路指導部主導型の進路指導で、3年間を見通したキャリア教育を行う。
 - イ 各系列においても、大学や企業等の多様な人材・機関との連携を深め、生徒の職業観を醸成する。

【評価指標】

- ※教育産業が実施する学力診断テストにおける(2学期実施分)におけるCゾーンの割合を前年度比10%増にする。 [R6 11.2%、R7 13.2%]
- ※教育産業が実施する学力診断テストにおける(2学期実施分)におけるBゾーン以上に達する生徒を10名以上育成する。 [R6 10名、R7 8名]
- ※資格取得者・検定合格者数を令和10年度まで300名以上にする。 [R5 253名、R6 341名、R7 351名]
- ※進路未決定卒業生率を減少させ、ゼロをめざす。 [R5 2.1%、R6 1.7%、R7 4.0%]

4. 地域に応援され、地域に貢献できる学校づくり

- (1) 「本校の魅力」発信を積極的に行い、入学者選抜志願者確保に向けてより一層取り組む。
- (2) 地域との連携を強化し、地域に応援される学校をめざす。

【評価指標】 ※中学校訪問 150 校実施を組織的に取り組み、維持する。 ※学校説明会を年 5 回実施。参加者合計 800 名以上をめざす。 ※第一志望での入学者の割合 95%以上をめざす。 ※文化祭・体育祭合わせて 1000 名以上の来場者をめざす。		[R5 200 校、R6 169 校、R7 169 校] [R5 ～ 7 年度年 5 回実施。R5 707 名、R6 567 名、R7 700 名] [R5 89%、R6 92.7%、R7 92.0%] [R5 503 名、R6 872 名、R7 823 名]
5. 組織改善と人材育成を通して教員力をエンパワーする (1) 情報共有と教員間連携を強化し、良好な協働関係づくりと授業力・指導力向上をめざす。 (2) 全教員のスキルアップをはかる校内研修を充実させ、「学び続ける」教員を育成する。 (3) 教職員のコンプライアンス意識の向上を通して、危機管理体制及び安全・衛生管理の徹底を行う。		
【評価指標】 ※教員対象学校教育自己診断における各分掌・各学年間連携の円滑度を令和 10 年度までに 80%以上をめざし、維持する。		[R5 83%、R6 56.2%、R7 86.7%]
6. 労働安全衛生管理体制の充実 (1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき、働き方改革を推進する。 ア 校務運営について業務の見直しや ICT を用いて効率化をはかる。 イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築する。 ウ ゆとり週間等の取組みを通じて、休暇を取得しやすい環境を整備する。		
【評価指標】 ※年間の時間外在校等時間 720 時間を超える教育職員をゼロにし、維持する。 ※年間を通じて時間外勤務 360 時間以内をめざす。 ※年次有給休暇の平均取得日数を 16 日以上にする。		[R6 2 名、R7 3 名] [360 時間超 R5 25 名、R6 20 名、R7 23 名] [R6 平均 17 日 6 時間、R7 平均 14 日 4 時間]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7 年度値]	自己評価
1 魅力ある「わかる授業」で学力をエンパワーする	(1) ES の基本である学び直し学習を着実にを行い、1 年次における基礎学力の定着をはかる。	(1) ア ・モジュール授業による、国語・数学・英語の基礎的基本的学習事項の確実な定着をはかる。 イ ・全ての授業で「何をどう学ぶのか」「何ができるようになるのか」を明確に伝え、生徒の主体的に取り組む態度を育成しながら授業の実践に取り組む。	(1) ア ・学力判定指標 D3 (2 回目) の割合を前回比 10%減。 [49.6%→53.7% 4.1%増] イ ・生徒対象学校教育自己診断における授業満足度 90%以上。[84.2%]	
	(2) 1 人 1 台端末を活用した学びの充実	(2) ア ・教務部・情報処理部を中心に「学びの保障」を組織的に行う。	(2) ア ・生徒対象学校教育自己診断における 1 人 1 台端末活用度 90%以上。[89.1%]	
	(3) 授業力向上研修の充実	(3) ア ・公開授業を年 2 回行い、授業に対する校外からの意見を求める場とする。	(3) ア ・教員対象学校教育自己診断における学習指導に対する工夫・改善に対する意識の肯定率 90%以上。[83.4%]	
		イ ・研究授業・授業見学・研究協議を、計画的・組織的に実施する (年 2 回)。	イ ・授業観察用紙提出数 100 枚以上。[102 枚]	

2 きめ細やかな生徒指導で人間力をエンパワーする	(1) 進路実現に必要な基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成	(1) ア ・対話を重視した指導で良好な関係性を築くことで、安易な遅刻欠席の防止やマナー・ルールの徹底につなげる。 ・授業に集中できる学習環境の維持に向けて、校内美化活動を徹底する。	(1) ア ・総遅刻数・欠席数を前年度比 10%減。[遅刻 3021 回、欠席 5310 回] ・皆勤者数を前年度比 10%増。[34 名] ・生徒対象学校教育自己診断における指導への納得度 70%以上を維持。[70.3%] ・保護者対象学校教育自己診断における指導への共感度 80%以上。[79.8%] ・生徒対象学校教育自己診断における「校内美化」の取組み度 70%以上。[63.0%]	
	(2) 自己と他者を大切に、安心安全で充実した学校生活を送れる環境を維持	(2) ア ・あらゆる教育活動を通じて、人権教育を計画的・総合的に推進する。	(2) ア ・生徒対象学校教育自己診断における「人権について学ぶ機会がある」の肯定率 80%以上を維持。[85.6%]	
	(3) いかなるいじめも許さない・見逃さない指導の徹底と教育相談・支援委員会の充実	(3) ア ・学年集会等において常に学校の姿勢を訴える。 ・日常の観察に加え、いじめアンケート（年 3 回実施）等による情報収集を行い、未然防止・早期発見に努める。 ・特に 1 年次においてはチーム担任制を導入し、生徒が相談しやすい環境づくりに努める。 イ ・SC 等の多様な人材や関係機関との連携を強化し、支援体制を充実させる。	(3) ア ・生徒対象学校教育自己診断における「先生はいじめや私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率 90%以上。[87.6%] イ ・いじめに起因する不登校ゼロをめざす。[1 名]	

3 3年間を見通した進路指導「夢」実現力をエンパワーする	(1) 基礎学力の定着から発展的学力の育成 (2) 進路意識を高める取り組みの実施	(1) ア ・頑張った生徒に対し表彰等を行い、学習に対するモチベーションを向上させる。 イ ・社会で役立つ資格取得や検定試験に積極的に取り組む。 (2) ア ・卒業後を見据えた計画的な進路指導と生徒・保護者への積極的な情報提供を進路指導部が主導して実施する。 イ ・卒業生や上級生による講演・懇談会等を実施し、身近なロールモデルに触れることで進路意識の向上をはかる。 ・各学年・系列においても、大学や企業等の多様な人材・機関との連携を深め、生徒の職業観を醸成する。	(1) ア ・学力判定(2回め実施)指標Cゾーンの割合を前回比10%増。[増減なし] ・学力判定指標Bゾーン以上に達する生徒を育成。 [8名] イ ・資格取得者・検定試験合格者を300件以上を維持。 [351件] (2) ア ・保護者対象学校教育自己診断における進路指導満足度90%以上を維持。 [91.5%] イ ・生徒対象学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率90%以上を維持。 [90.0%]	
4 地域に応援され、地域に貢献できる学校づくり	(1) 令和9年度入学者選抜志願者確保のための広報活動 (2) 地域との連携強化	(1) ア ・中学校訪問や校内外での学校説明会に組織的に取り組む。 ・HPやSNS、「成城ニュース」による情報発信を実施。 (2) ア ・生徒会活動・部活動における地域行事への積極的参加。 イ ・地域等に文化祭・体育祭への観覧呼びかけを実施。	(1) ア ・中学校訪問150校以上を維持する。[169校] ・学校説明会を年5回実施し、参加者数700名以上を維持する。[5回、700名]。 ・塾・中学校教員対象の説明会を実施する。 [塾0名、中学校8校参加] ・令和7年度入学者対象アンケートで「本校を第一志望で入学」の回答95%以上。 [92.1%] (2) ア ・地域行事へ年3回参加。 [3回] イ ・文化祭・体育祭を合わせた来場者数900名以上。 [832名]	

5 組織改善と人材育成を通して教員力をエンパワーする	(1) 情報共有と連携の強化 (2) 「学び続ける教員」の育成 (3) コンプライアンス意識の向上と危機管理体制・安全衛生管理体制の徹底	(1) ア ・各会議等を通して、丁寧な情報共有や課題検討を行い、協働する教員集団をつくる。 (2) ア ・「成城みらいプロジェクト」活動の充実。ミドルリーダーの育成と経験年数の少ない教員の学びの場とする。 ・現状の課題に即した教員力向上のためのスキルアップ研修の実施。 (3) ア ・職員会議等において、不祥事防止、個人情報の適正管理、職場のハラスメント防止について周知し、その都度注意喚起を行う。 イ ・危機管理、安全衛生管理に関する校内マニュアルの見直しを行い、全教職員に周知・徹底する。	(1) ア ・教員対象学校教育自己診断における会議の有効度 80%以上。[79.3%] ・教員対象学校教育自己診断における各分掌・各学年連携の円滑度 80%以上を維持。[86.7%] (2) ア ・「成城みらいプロジェクト」主催の研修を年1回実施。[2回] ・教頭・首席主催によるスキルアップ研修を3回実施。[6回] (3) ア ・不祥事事象ゼロをめざす。[3件] イ ・年1回の研修を実施。[2回]	
6 労働安全衛生管理体制の充実	(1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき、働き方改革を推進する。	(1) ア ・ICT を活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しをはかる。 イ ・部活動の年間・月間活動計画、実績報告をもとに適切な休養日確保を徹底し、方針に則った適切な活動を行う。 ウ ・ゆとり週間・月間の徹底に取組み、年休取得を促進する。 ・定時退庁日の徹底に取組み、教職員の時間外在校等時間の縮減をはかる。	ア ・年間の時間外在校等時間 720 時間を超える教育職員をゼロにする。[3名] イ ・年間を通じた時間外在校等時間 360 時間以内をめざす。[360 時間超 23 名（全体平均 309.41 時間）] ウ ・年次有給休暇の平均取得日数 16 日以上にする。[新規]	